

# 幼見保育史年表

一明治  
八六八  
八  
昭和一  
九四九

本年表作成に当っては、「婦人と子ども」誌、「幼児の教育」誌に関連のある事項に重点をおき、外国の幼児教育事情との関連が明瞭になるように、とくに配慮した。年表上欄「日本の幼児保育事項」には、日本の幼児保育に関する事項を記載し、下欄「関連事項」には、社会及び文化の主要な事項を記載した。外国の幼児教育に関する事項も、下欄に記載した。

全体にわたって、日本保育学会編、「日本幼児保育史第六巻」、日本幼児保育史年表を参照した。日本保育学会の労作に対し、厚く感謝したい。また、一般事項については「日本史年表」(河出書房刊)「近代日本総合年表」(岩波書店刊)「日本幼稚園百年史」を参考とした。

なお、大戸美也子、国吉栄、その他編集に協力して下さった方々に感謝の意を表します。





明治 五  
一八七二

八月 「学制」頒布（「幼稚小学」の規程あり、第二十二章に「幼稚小学ハ、男女ノ子弟六歳迄ノモノ小学ニ入ル前ノ端緒ヲ教ユルナリ」の条文あり。就学前教育に関する規程のはじめ）  
—— 関信三、英国に出发（明治七年一月帰国）

二月 福沢諭吉「学問のすずめ」初編刊  
五月 小学校教師教導場（小学師範学校）設立  
九月 「小学教則」「中学教則略」を公布  
同月 新橋、横浜間鉄道開通  
十月 奴婢娼妓解放を布告し、人身売買を禁止  
十一月 太陽曆採用  
—— 豊田英雄、水戸の養校女学校の教師となる  
—— 日曜学校運動始まる  
—— 露国フレール学院開設。主婦および幼稚園教師の最初の養成機関

Donai, A.: The Kindergarten — A Manual for the Introduction of Froebel's System of Primary Education into Public Schools; and for the Use of Mothers and Private Teachers. 刊（関信三訳）  
「幼稚園記」明治九刊）

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治六 一八七三	十月 「幼童教育ノ為メ絵画器品班布の事」絵四十七種、玩具二種を家庭における幼児教育用に頒布	<p>一月 徴兵令公布</p> <p>二月 切支丹禁制高札撤去</p> <p>三月 「三子出産ノ貧困者へ養育料給与方」公布</p> <p>五月 東京に師範学校設立</p> <p>——ウィーンにて、埃国博覧会開かれ、近藤真琴が派遣される</p> <p>——スーザン・プロウ、セントルイスの公立幼稚園主任となる。合わせて教員訓練所も開設</p> <p>——ベルリンに「ベスタロッツ・フレールハウス」建設</p> <p>——英国では、この頃よりフレールベル教育の幼児学校への導入が盛んとなる。各地にフレールベル協会結成される。</p> <p>渡部温「通俗伊蘇普物語」(イソップ)の抄訳「刊行</p> <p>佐沢太郎訳「仏国学制」初・二編刊</p> <p>F・H・ゲッセル「子供青草」村田文雄訳刊</p> <p>Kindergarten Messenger 創刊(米国における最初の幼児教育雑誌、一八七七)</p>

明治 七  
一八七四

一月 文部少輔田中不二麿、女子師範学校創立の伺書を太政大臣に提出

二月 文部省、女子師範学校設立の布達

三月 文部省、東京に女子師範学校を設置（開校明治八）  
——伊沢修二「蝶々／＼菜のはにとまれ」をつくる

明治 八  
一八七五

七月 文部大輔田中不二麿、幼稚園開設に関する伺書を太政大臣に提出

九月 文部省、東京女子師範学校内に幼稚園を設けるべき旨達す

十一月 東京女子師範学校開校。中村正直、摂理となる

十二月 京都府、柳池小学校に「幼稚遊嬉場」の開設

——豊田英雄、東京女子師範学校に招かれる

——堺泉などに「子守学校」の設立はじまる

近藤真琴著「博覧会見聞録別記『子育ての巻』」刊

「幼稚園玩器」十一冊編纂

七月 小学校教員（小学訓導）の免許規則を設定  
九月 田中不二麿、文部大輔に就任

同月 朝野新聞刊

十一月 読売新聞刊  
——シカゴ市に公立幼稚園設立

一月 文部省布達により、小学学齢が満六歳から十四歳までとなる

四月 立憲政体樹立の旨詔勅

十一月 同志社英学校開校

——伊沢修二、高嶺秀夫ら師範教育研究のため米留學

——京都府、待賢小学校訓導、古河大四郎、手話法を用いた聾啞教育を始める

——アンデルセン死す

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治九 一八七六	<p>六月 「東京女子師範学校附属幼稚園保育法」等の議を決定</p> <p>同月 東京女子師範学校において、幼児教育に関する日本国婦人之会議開催</p> <p>八月 松野クララ来日</p> <p>十一月 東京女子師範学校において、婦人のための第二回集会開催さる（関信三講演）</p> <p>同月 東京女子師範学校附属幼稚園の開設。監事関信三、首席保姆松野クララ、保姆豊田美雄、近藤浜</p> <p>その直後より中村正直訳「ドウアイ氏幼稚園の概旨」「フレール氏幼稚園の概旨」、関信三「幼稚園」を日新聞に掲載</p> <p>「貧民の子女」の就学のため「子守学校」の必要が、「文部省年報」などで論じられる</p> <p>— フィラデルフィアにおいて、万国博覧会開催、日本より幼稚園玩具（恩物）出品</p> <p>— 石川県「幼稚集遊場」の設立を奨励。他県も幼稚園開設の策を立てるものあり</p>	<p>近藤鎮三著「母親の心得」刊</p> <p>三月 佩刀廃止令</p> <p>四月 官庁、日曜日・土曜半休業施</p> <p>八月 札幌農学校開校</p> <p>— Kindergarten Messenger が New England Journal of Education に合併される</p> <p>— シェルツ夫人死す</p>



ロンジ夫妻著、桑田親五訳、文部省編「幼稚園」上ノ巻刊  
ドウアイ著、関信三訳「幼稚園記」三巻刊

明治一〇  
一八七七

二月 東京女子師範学校に附属小学校を設置  
七月 東京女子師範学校附属幼稚園規則を改正。以後幼稚園規則の原型となる

十一月 東京女子師範学校附属幼稚園開業式に皇后（昭憲皇太后）、皇太后（英照皇太后）行啓

ロンジ夫妻著、桑田親五訳、文部省編「幼稚園」中ノ巻刊  
中村正直著「フレイベル理論」刊

ビーボディ、マン共著、関信三訳「幼稚園記」附録刊

明治一一  
一八七八

二月 東京女子師範学校附属幼稚園に保育見習生を置く

六月 東京女子師範学校に幼稚園保姆練習科を附設

七月 東京女子師範学校に練習小学校を附設

十一月 幼稚園保姆練習科生徒給費規則を制定

二月 西南の役始まる

十月 学習院創立

——米國フレイベル連盟結成（会長ビーボディ夫人）

『穎才新誌』創刊

五月 京都に「盲啞院」設立

——サンフランシスコにシルバーストリート・キンダーガルテン設立。ケート・ダグラス・ウイギンスが最初のキンダーガルトナーとなる

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
明治一二 一八七九	<p>関信三著「幼稚園創立法」刊          ロンジ夫妻著、桑田親五訳、文部省編「幼稚園」下の巻刊</p> <p>四月 鹿児島県女子師範学校附属幼稚園開設。東京女子師範学校附属幼稚園保姆豊田英雄鹿児島に聘せられ、同時に保姆も養成す</p> <p>五月 大阪府立模範幼稚園開設（東京女子師範学校附属幼稚園の見習生であった氏原銀、木村末による）。同時に保姆も養成</p> <p>六月 宮城県仙台区に公立木町通小学校附属幼稚園開設</p> <p>九月 「教育令」制定。幼稚園は公私立の別なく、皆文部卿の監督内に入る</p> <p>十一月 公立幼稚園の設置・廃止は府知事県令の、その保育法は文部卿の認可を受け、私立幼稚園の設置・廃止およびその保育法は府知事県令に開申することとする</p> <p>同月 和歌山県立稚児保育所開設</p> <p>同月 東京、芝公園内に近藤幼稚園開設（近藤浜による東京で最初の私立幼稚園）</p> <p>同月 関信三死す</p>	<p>一月 朝日新聞創刊</p> <p>二月 東京法学校（法政大学）創立</p> <p>三月 東京女子師範学校第一回卒業式</p> <p>四月 沖繩県を置く</p> <p>十月 文部省内に音楽取調掛設置。伊沢修二取調掛となる</p> <p>十一月 新約聖書全巻和訳完成</p> <p>同月 メソジスト教会派神学校（青山学院）創立</p> <p>十二月 モース、大森貝塚を発見</p> <p>Froebel (Trans. Javis) : Mother Play and Nursery Songs. 刊（母の遊戯及育児歌）の最初の英訳</p>

関信三編「幼稚園法二十遊嬉」刊  
大阪府学務課「大阪幼稚園手引」刊  
豊田英雄述「保育の栞」刊

明治一三  
一八八〇

三月 米人メイソン、音楽取調掛教師として来日  
四月 メイソン、東京師範学校、同附属小学校、東京女子師範学校、同附属小学校、同附属幼稚園で唱歌教授を始める  
同月 東京、私立桜井女学校附属幼稚園の開設（桜井チカ、初めてのキリスト教幼稚園）  
同月 神津専三郎、東京女子師範学校附属幼稚園監事となる  
六月 大阪府東区に愛珠幼稚園の開設  
七月 東京女子師範学校、附属保母練習科を廃止し、本科の課程に幼児教育法を編入し、小学校教員および幼稚園保母となれるようにする  
九月 小西信八、東京女子師範学校附属幼稚園監事となる  
十月 横浜、ブリテン女学校附属幼稚園の開設（代表ミス・ブリテン）  
十二月 「教育令」を改正。公立幼稚園のうち府県立幼稚園の設

七月 専修学校（専修大学）創立  
十一月 私立大阪商法講習所（大阪商大）設立  
十二月 明治法律学校（明治大学）設立  
——ケート・ダグラス・ウィギン、サンフランシスコのシルバーストリートキンダーガルテンに幼稚園養成所を設立  
——ウィリアム・ハリス・セントルイスを去る  
ダンレー著「育幼草」刊  
片山平三郎訳「鸚鵡籠児回島記」(スウィフトGulliver's Travers の抄訳)  
Barnard, H.: Papers on Kindergarten and Child Culture. 刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治一四 一八一	<p>置・廃止は文部卿の認可を受け、町村立幼稚園の設置・廃止は府知事県令の認可を受け、私立幼稚園の設置は府知事県令の認可を受け、廃止は府知事県令に開申することとする。町村立私立幼稚園の設置・廃止の規則は府知事県令が起草して文部卿の認可を受けることとする</p> <p>一月 文部省「府県立学校幼稚園書籍館設置廃止規則」「町村立私立学校幼稚園書籍館等設置廃止規則起草心得」を定む            七月 東京女子師範学校附属幼稚園の規則を改正            十月 東京、本所区立江東女子小学校附属幼稚園の開設            十一月 群馬、師範学校内に幼稚遊戯場を付設し、生徒の保育実習にあてる</p>	<p>一月 「小中校教員免許状授与方心得」制定            五月 「小学校教則綱領」制定            六月 「小学校教員心得」制定            七月 「小学校教員免許状授与心得」改正            同月 「学校教員品行検定規則」制定            八月 「師範学校教則大綱」制定            九月 東京物理学校創立</p> <p>文部省音楽取調掛編「小学校唱歌集」初編刊            トーマス・ボル著、杉山由哲訳「育児須知」三冊刊            Hall, G. S.: Contents of Mind. 刊</p>

明治一五  
一八八二

七月 東京女子師範学校予科を廃し、附属高等女学校を設置  
十二月 文部省「地方教育奨励ノ為メ学事賞与例並ニ学事奨励品付与例」を制定（地方の教育を奨励するため公私立幼稚園で特に効果をあげた幼稚園には文部省が奨励品を与えることとする）

同月 文部卿代理九鬼文部少輔、幼稚園について示論（貧民力役者等の幼児を保育するために簡易編成の幼稚園設置の必要性につき等）

同月 倉橋惣三生まる

明治一六  
一八八三

二月 渡辺嘉重、茨城県小山村に子守学校を開設（乳幼児の保育）

九月 京都、小学校附属幼稚園保育規定制定

十月 東京専門学校（早稲田大学）開校

——スタンレー・ホール、ジョンズ・ホプキンス大学に米国最初の実験心理学の研究室を開設

——北米フレイベル学院設立（名誉院長ビーボディ、院長W・ヘイルマン）

宮内省編「幼学綱要」刊

Preyer: Die Seele des Kindes. 刊

五月 「音楽取調掛規則」制定

七月 「府県立師範学校通則」制定

同月 「小学校教員免許状授与方心得」改正

同月 鹿鳴館落成

八月 府県に教員講習所設置

——英国フェビアン協会結成

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
<p>明治一七 一八八四</p>	<p>二月 学令未滿の幼児の小学校入学を禁じ、幼稚園の設立を勸奨 同月 東京女子師範学校附属幼稚園の規則を改正。通則、保育規 則、入園退園規則の三章に分け保育課程表など改める 六月 京都府立女学校内に仮幼稚園を附設し、師範学科生徒らの 実習に供す</p> <p>日柳喬編、小田末閔「幼稚園案内」刊 渡辺嘉重著「子守教育法」刊</p>	<p>——F・パークー(進歩主義教育の父)クック郡師範 学校長就任 官報刊行 メーソン著、内田弥一訳「音楽指南」刊 Parker, F.: Talk on Teaching. 刊</p> <p>——スーザン・プロウ、セントルイスを去る(National Education Association に幼稚園部設立し幼稚園運 動を全国規模で展開するため) Dewey, J.: New Psychology. 刊</p>

明治一八  
一八八五

六月 学生生徒の授業料および幼稚園保育料の定額を直轄学校に  
通達

八月 「教育令」改正

同月 師範学校に女子師範学校を合併し、東京女子師範学校を、

東京師範学校女子部と改称する

——桜井女学校に一カ年制の幼稚保育科開設

飯島半十郎著「幼稚園初歩」二冊刊

飯島半十郎著「幼稚園智慧のみちひき」二冊刊

胡蝶園主人編「育児法改良説」刊

石原千城翻刻「幼稚園保育」刊

明治一九  
一八八六

四月 文部省「諸学校通則」制定。府県立幼稚園の設置変更廃止  
は文部大臣の認可を受け、区町村立幼稚園の設置変更は府知事  
県令の認可を受け、その廃止は府知事県令に上申することとす  
る

同月 東京師範学校を高等師範学校と改称

十月 金沢、北陸女学校附属北陸英和幼稚園設立

二月 音楽取調掛を音楽取調所と改正  
同月 硯友社結成

九月 私立英吉利法律学校（中央大学）開校

十一月 「訓盲啞院」が文部省直轄学校となる

十二月 図画取調掛を設置

同月 音楽取調所を再び音楽取調掛とする

——太政官を廃し、新に内閣制度創立

——元良勇次郎、ジョンズホプキンス大学、スタンレ

ー・ホールのもとで学ぶ

『女学雑誌』（知識人女性を対象とした最初の教養誌）  
創刊

三月 帝国大学創立

四月 「師範学校令」「小学校令」（義務教育四年を規  
定）「中学校令」公布

同月 「高等師範学校官制」公布

五月 「教科用図書検定条例」制定

同月 「小学校の学科及其程度」制定

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治二〇 一八八七	(代表ミス・ポートル)  六月 誠之小学校附属幼稚園開設 十二月 A・L・ハウ、米国婦人伝道会社の宣教師として来日 (昭和二) ——豊田英雄、ローマに行く  植木枝盛著「育幼論」刊 林吾一著「幼稚保育編」刊 文部省音楽取調掛編「幼稚園唱歌集」一冊刊 加藤錦子撰「幼稚園玩器排形手本」五冊刊 寺井与三郎著「幼稚園保育術」刊	同月 「小学簡易科教則要領」制定 六月 「小学校教員免許規則」制定 同月 明治学院設立 七月 東経一三五度の子午線時を日本標準時と決定 十二月 私立関西法律学校創立(関西大学) 同月 婦人矯風会の結成 ——ニューヨークに米国最初のセツルメント創設  四月 鹿鳴館で首相主催の仮装舞踏会を開く 八月 地方の情況により小学校教員仮免許状を授与することのできることをする 九月 哲学館(東洋大学)設立 十月 音楽取調掛を東京音楽学校、函画取調掛を東京美術学校と改称



明治二一  
一八八八

山内淳子著「幼稚教訓唱歌」刊  
長谷信道「年中行事教育幼児遊戯」刊  
岡山県「幼稚園唱歌集」刊  
榎本常・平松三木枝編「幼児保育の手引」刊  
ジョセフ・ペーン著、山県悌三郎訳「フレイベル氏小伝及幼稚園」刊

十月 東京府教育会附属保姆講習所開設（現竹早幼稚園教員養成所）

七月 東京朝日新聞刊  
八月 「尋常師範学校設備準則」制定  
十一月 大阪毎日新聞刊  
十二月 文部省、小学校及びその他普通学校の教員の集会、政治活動取締に関し省令を発す  
同月 東京美術学校設立  
同月 国礼歌「君が代」を制定し各国に通告する  
——元良勇次郎、東京帝国大学文科大学精神物理学講師となる（日本における最初の心理学担当教授）  
——英国において全国フレイベル連盟結成される  
Kindergarten Magazine 創刊（米国各地の幼稚園運動を統合する働きを果たした）

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
明治二三 一八九〇	九月 京都市保育会の結成 十月 ハウ女史により、頌栄幼稚園並に頌栄保姆伝習所設立（頌栄短期大学） 同月 大阪、高等女学校附属保姆養成所を愛珠幼稚園内に設立 十二月 横浜婦人慈善会設立 同月 東京府教育会「幼稚園保姆講習所」設立、後「帝国教育会附属保姆伝習所」となる 三月 東京高等師範学校から女子部を分離して、女子高等師範学校と称する 四月 中村五六、女子高等師範学校附属幼稚園主事となる 六月 赤沢鍾美、仲子夫妻家塾新瀉静修学校に託児施設開設（守	二月 「大日本帝国憲法」発布 四月 市制、町村制施行 七月 東海道線全通 九月 日本法律学校設立（日本大学） —スタンレー・ホール、クラーク大学長就任 —ウィリアム・ハリス、米国連邦教育長官就任 —ジェーン・アダムス、ハル・ハウス（セツルメン ト）開設 木村曙著「婦女の鑑」刊 『教育学術界』創刊（昭和十八） 森鷗外訳「新世界の浦島」（アイヴィング Rip Van Winkle の抄訳）刊 五月 府県制、郡制を公布 七月 国学院創立 十月 「教育ニ関スル勅語」渙発 同月 「地方学事通則」制定

孤扶独幼稚見保護会」と命名。日本で初めての託児施設

七月 京都市保育会主催、保育講習会開催

十月 「小学校令」改正（公私立幼稚園の設置、廃止について規定。学齡児童の教育は公立小学校において行なうべき原則確立）

谷口流篤著「家庭教育幼稚園」刊

明治二四

一八九一

四月 婦人矯風会「子守学校」を開設

八月 細川潤次郎、女子高等師範学校長となる

同月 京都市保育会主催、講習会開催

九月 広島女学校附属幼稚園の開設（代表ミス・ゲインズ）

十一月 文部省「幼稚園、図書館、盲啞学校其他小学校ニ類スル各種学校及私立小学校等ニ関スル規則」制定

十二月 岡山博愛会の結成

十一月 第一回帝國議會

十二月 東京盲啞学校の石川倉次、小西信八らとともに日本訓盲点字を完成

同月 東京—横浜間に電話開通

—アンナ・ブライアン、N・E・Aにおいてフレール式幼稚園の批判演説をする

若松賤子「小公子」訳出始まる

James, W.: Principles of Psychology. 刊  
Kindergarten Review 創刊

四月 「小学校設備準則」制定

九月 上野—青森鉄道開通

十月 濃尾大地震

十一月 小学校教員大綱

十二月 石井亮一「孤女学院」設立（明治二九年滝野川学園と改称、わが国最初の精神薄弱児施設）

巖谷小波著「こがね丸」刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治二五 一八九二	二月 京都市保育会主催、保育諸教科講習会開催 四月 京都府、幼稚園保姆の資格及び保育内容に関する規則を制定 九月 尋常師範学校の学科及び程度を改正し、尋常師範学校で土地の状況により幼稚園保姆講習科を附設しようとする 同月 女子高等師範学校附属幼稚園に分室を設置し、下層階級の幼児と保育、簡易幼稚園のモデルとする 同月 女子高等師範学校附属幼稚園に「保姆会」が組織され、「幼稚園改良会」が合流、年四回の会合をもつ ハウ選「幼稚園唱歌」刊 市橋虎之助著「幼稚園通覧」刊	『幼年雑誌』刊 大槻文彦「言海」刊 Pedagogical Seminary and Journal of Genetic Psychology (クタンレー・ホールによる最初の発達心理学学術雑誌) 創刊 — 米国にて万国幼稚園連盟 (I. K. U.) 設立 — 全国ヘルベルト協会発足 — 英国にてフレーベル教育学院開設 — ライス・Jによる米国公教育批判始まる Wiggin, K. D.: Children's Rights. 刊

明治二六  
一八九三

四月 京都市保育会主催、幼児心理学講習会開催

九月 頌栄保母伝習所に、二カ年の高等科を設置、本科と合わせて四カ年とする

十二月 京都、尋常師範学校に幼稚園保母講習科を設置

中村五六編著「幼稚園摘葉」刊

ハウ著「保育学初歩」刊

明治二七  
一八九四

三月 東京、深川の東京紡績株式会社（大日本紡績会社）に託児

施設をつくる（工場託児所の始め）

十二月 「東京市保育法研究会」の結成

ハウ選「クリスマスの唱歌」刊

女子高等師範学校編「公立幼稚園保育課目取調表」刊

八月 文部省、小学校における祝日大祭日の儀式に用

いる歌詞、楽譜を選定

——米国において全国児童研究協会設立

内村鑑三著「基督信徒の慰め」「求安録」刊

八月 日清戦争始まる

——エリザベス・ビーボディ死す

——英国において児童教育協会設立（米国の進歩主義教育紹介の窓口となる）

——デューイ、シカゴ大学哲学・心理・教育科主任に就任

——ブローウ、セントルイスに戻り、幼稚園教育に復帰

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
<p>明治二八 一八九五</p>	<p>一月 「東京市保育法研究会」第一回常集会開催。            四月 広島女学校保姆養成科の設置（聖和女子大学）            九月 大久保介寿、女子高等師範学校附属幼稚園主事となる</p>	<p>する</p> <p>Blow, S.: Symbolic Education. 刊            (フーネル主義教育の代表的著作)</p> <p>四月 日清講和条約調印            ——スタンレー・ホール、ジョン・デューイ等シカゴ            において、幼稚園教育のセミナー開催（フロウの            Symbolic Education を批判）            ——I. K. U. が N. E. A. の幼稚園部より独立</p> <p>アンドリー著、坂田幸三郎訳「七小姉妹」刊            民友社編「玩具と遊戯」刊            樋口一葉著「たけくらべ」刊            『太陽』『文芸倶楽部』創刊            『少年世界』創刊</p> <p>Blow, s.: Songs and Music of Friendlich Froebel's            Mother Play. 刊</p>

明治二九  
一八九六

一月 「東京市保育法研究会」を「東京市保育会」と改称、同時に規則も改正し第一回集会開催

四月 「フレールベル会」結成（女子高等師範学校附属幼稚園の保母会を中心にした、保育研究を目的とする保母団体。年一回「フレールベル会報告」を発行）

七月 女子高等師範学校に保母練習科を復活。明治三八年に保育実習科と改称

同月 愛珠幼稚園、恩物のなかの積木を大型に改良し、共同で遊べるようにする

八月 文部省「学齡未滿ノ児童就学禁止方」を訓令

十二月 岩手、凶作を期に盛岡市各寺院、貧困児保育開始

同月 岡山、尋常師範学校に幼稚園保母講習科設置

明治三〇  
一八九七

三月 東京、神田三崎町にキングスレー館設立。館内に三崎幼稚園を開設（片山潜らによる我が国最初のセツルメント）

三月 「市町村立小学校教員年功加俸国库補助法」公布

四月 長野県長野小学校に特殊学級設置（我が国最初の特殊学級）

—— デューイの実験学校始まる（一八九〇三）

—— ピアジェ生まる

巖谷小波により叢書「日本お伽噺」刊行始まる

森田思軒訳「十五少年」刊

Wiggin & Smith: Kindergarten and Practice.

（ハウ訳「幼稚園原理と実習」大正六）刊

一月 「学校清潔方法」訓令

四月 「伝染病予防法」公布

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
明治三一 一八九八	<p>四月 フレーベル会第二回総会</p> <p>六月 京都市保育会主催講習会開催</p> <p>七月 大阪市保育会結成</p> <p>十月 「師範学校令」公布（地方における保母養成機関について規定）</p> <p>同月 大阪市保育会第一回総集會開催</p> <p>同月 神戸市保育会結成</p> <p>同月 京阪神三市連合保育会結成</p> <p>十一月 京阪神三市連合保育会第一回総会開催。昭和二年関西連合保育会と改称</p> <p>フレーベル著、ハウ訳「母の遊戯及育児歌」上下刊</p> <p>一月 中村五六、女子高等師範学校附属幼稚園主事となる</p> <p>四月 フレーベル会第三回総会</p> <p>同月 京阪神三市連合保育第二回総会</p> <p>同月 名古屋、柳城保母養成所の設立（柳城女子短期大学）</p> <p>七月 京都市保育会、展覧會に幼児の手工品、保育室の實際狀況</p>	<p>同月 帝国図書館開館</p> <p>六月 京都帝国大学創立</p> <p>七月 「小学校学級数ノ制限」訓令</p> <p>同月 労働組合期成會結成</p> <p>——歌舞伎座で「子供芝居」上演さる</p> <p>一月 公立学校に学校医を設置</p> <p>二月 学校医職務規程および学校医の資格を制定</p> <p>三月 東京音楽学校で慈善音楽會開催。収益の半分を二葉幼稚園設立の資金とする</p> <p>七月 日本美術院創立</p>



の模写、写真等出品

同月 東京府教育会附属保母講習所一時閉鎖

十一月 京阪神三市連合保育会第三回総会

同月 フレーベル会、幼稚園制度に関する建議書を文部大臣に提出  
京阪神連合保育会雑誌創刊（年二回発行）

明治三二

一八九九

四月 京阪神三市連合保育会、保母の待遇改善に関する建議を文

部大臣及び高等教育會議あてに提出

同月 京阪神三市連合保育会第四回総会

同月 フレーベル会第四回総会

六月 文部省「幼稚園保育及設備規程」制定（幼稚園に関する最初の単行法令）

同月 香川、女囚の携帯児養育のため保育場設置（讃岐学園）

十一月 京阪神三市連合保育会第五回総会

九月 文部省「学校幼稚園伝染病予防消毒方法」制定

——この頃より米国における「H.P.C.」にて保守派と進歩派の論争が始まる

——デューイ、実験学校幼稚園部附設

高島平三郎、松本孝次郎編『児童研究』創刊

七月 「小学校設備準則」改正

八月 「私立学校令」公布

十月 「小学校教育費国庫補助法」公布

——英国において教育院（文部省）の設置

巖谷小波著「世界のお伽噺」全百編刊行はじまる

福沢諭吉著「新女大学」刊

Bark: Kindergarten Problem. 刊（フレーベル教育批判の書）

Dewey, J.: School and Society. 刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治三三 一九〇〇	<p>一月 東京、麴町に二葉幼稚園開設（大正四、二葉保育園と改称、託児所の最初）</p> <p>四月 東基吉、女子高等師範学校附属幼稚園批評係就任</p> <p>同月 フレーベル会第五回総会</p> <p>同月 京阪神三市連合保育会第六回総会</p> <p>八月 「小学校令」改正（幼稚園に関する規程はこの小学校令に規程するほかは文部大臣がこれを定めることとする）</p> <p>同月 「小学校令施行規則」制定（幼稚園及小学校ニ類スル各種学校」の一章を設け、幼稚園の目的、保育項目、保育時間、保姆の資格、採用、解職、規模、設備等を定める）</p> <p>九月 大阪市保育会、保姆養成所設置促進のための建議書を大阪府知事及び大阪市教育会長あてに提出</p> <p>十一月 京阪神三市連合保育会第七回総会</p> <p>同月 大阪市保育会「保姆養成所設置建議書」を府知事に提出</p> <p>田村虎蔵、納所弁次郎共著「幼稚園唱歌集」刊（「桃太郎」「うさぎとかめ」などの愛唱歌生まれる）</p>	<p>三月 「学生生徒及幼児ノ身体検査規程」制定</p> <p>同月 「市町村立小学校教育費国库補助法」公布</p> <p>同月 「治安警察法」公布</p> <p>同月 「未青年者喫煙禁止法、感化法」公布</p> <p>七月 女子英学塾（現津田塾大学）創立</p> <p>九月 上野、新橋両駅にはじめて公衆電話設置</p> <p>信濃教育会「子守教育法」刊</p> <p>『幼年世界』創刊</p> <p>内村鑑三『聖書之研究』創刊</p> <p>Fraud, S.: Traundentung. (夢の研究) 刊</p>

明治三四  
一九〇一  
『婦人と子  
ども』創刊  
第一卷

一月 女子高等師範学校附属幼稚園内フレール会により『婦人と子ども』創刊（主幹・中村五六、発行所・フレール会、発行所・金昌堂、編集・東基吉）  
二月 東基吉「幼児保育法につきて」『婦人と子ども』一卷一・二号に掲載（恩物批判を紹介。東、以後同誌上で活躍す）  
三月 女子高等師範学校保母練習科一次閉鎖  
四月 フレール会第六回総会  
同月 大阪府女子師範学校講習科（保母養成）開設  
同月 大阪市保育会附属保母講習会を府立女子師範学校内で開催  
五月 京阪神三市連合保育会第八回総会  
同月 全国教育用品展覧会幼稚園部に恩物等各種遊具出品  
同月 京都市保育会主催各種講習会開催（植物学、遊戯法、博物学）  
十月 「市町村ノ廃置分合等ニ因リ消滅スヘキ学校幼稚園及児童教育事務委託ノ存続ニ関スル規定」を制定  
十二月 頌栄幼稚園主催で京阪神園長保母のための神戸保母大会開催  
東くめ、滝廉太郎他著「幼稚唱歌」刊（「鳩ぼっぼ」「お正月」など）

一月 「小学校令施行規則」のうち教科書の審査採定についての追加を定める  
三月 愛国婦人会結成  
四月 日本女子大学校設立  
同月 石川倉次、日本点字を完成  
——フライアン死す

久津見藤村著「子供のしつけ」刊  
『女学雑誌』終刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治三五 一九〇二 『婦人と子ども』第二 卷	二月 「地方学事通則」改正。新たに「幼稚園、図書館」を加えることとする 四月 フレーベル会第七回総会 同月 頌栄幼稚園、宗教観の相違から京阪神三市連合保育会を脱退 五月 京阪神三市連合保育会第九回総会。この時神戸市保育会が脱会したため京阪連合保育会と改称 六月 板垣退助の発案により東京女囚携帯乳幼児保育会設立（大日本婦人同愛会に合併） 同月 京都市保育会主催「保姆講習会」開催 同月 東京、築地のバプテスト教会内に東京保姆伝習所（彰栄保育専門学校）開設 七月 大阪市保育会主催「夏期保育法講習会」開催 八月 東京、鐘ヶ淵紡績株式会社に鐘ヶ淵乳児保育所設立 十二月 神戸市公立幼稚園は新たに神戸市保育会を組織し、京阪連合保育会に再加入し、三市連合保育会復活 市橋虎之助著「幼稚園の欠点」刊 大阪市愛珠幼稚園「沿革誌」刊	一月 八甲田山雪中行軍事件起る 同月 日英同盟協約 英国において二歳未満児の就学禁止

明治三七  
一九〇四

明治三六  
一九〇三  
『婦人と子  
ども』第三  
巻

四月 フレーベル会第八回総会  
五月 京阪神三市連合保育会第十回総会  
同月 京阪神三市連合保育会、大阪保育会長大村芳樹の名で、保  
姆待遇に関する建議書を文部大臣に提出  
同月 第五回内国勸業博覧会に協賛して大阪府教育会が教育大会  
を開催。この中の保育部大会で文部大臣あての建議が採択決議  
される（保姆待遇に関する件）  
七月 『婦人と子ども』に「幼児の汽車遊び」と題する幼稚園で  
実際に展開された遊びの報告文が掲載される（三巻七号、署名  
和歌子）  
八月 ハウ、岡山県教育会主催の夏期講習会において米国におけ  
る幼稚園界の現状等について講義する  
A・L・ハウ著「保育法講義録」刊  
三月 東京市軍人家族授産婦人会、工場を建設して軍隊の洗濯を  
うけおい、また裁縫部、幼児保育所を新設する

三月 「専門学校令」公布  
四月 第一回全国慈善同盟大会  
同月 「小学校令」改正。国定教科書制度を確立  
同月 高等小学校の国語科にローマ字教育の建議を帝  
国教育会において決議  
八月 東京市電運転開始  
——川上音二郎一座「お伽芝居」上演  
——久留島武彦、子どものための「お話の会」開く  
——米国のI.N.D.にて、幼稚園の論争を検討するため  
に委員会（十九人委員会）が設けられる  
——デューイの実験学校、シカゴ大学に吸収される  
津田元徳編述「幼児心理学」刊  
二月 日露戦争起る  
四月 国定読本を全国に採用

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
<p>『婦人と子ども』第四卷</p> <p>明治三八 一九〇五</p>	<p>同月 滋賀、近江婦人慈善会（幼児保育等）の設立</p> <p>四月 フレーベル会第九回総会</p> <p>同月 東京孤児院に臨時預児部開設</p> <p>五月 京阪神三市連合保育会第十一回総会</p> <p>同月 京阪神三市連合保育会、保姆待遇及び資格改善に関する建議書を文部大臣及び高等教育会議長に提出（七月にも提出）</p> <p>六月 神戸市婦人奉公会、臨時に保育事業をはじめ。これを「神戸市出征軍人遺族児童保管所」と呼び、市内八王寺、八幡、楠町、薬仙寺の四カ所につくる</p> <p>同月 東京府教育会附属保姆講習会一時閉鎖</p> <p>同月 宮城県師範学校保姆養成所開設</p> <p>——この頃出征軍人、遺家族のための幼児保育所、各地で開設される</p> <p>東基吉著「幼稚園保育法」刊</p>	<p>同月 「下士兵卒家族扶助令」公布</p> <p>——デューイ、コロンビア大学へ転出</p> <p>——英国教育院、幼児の公教育での状況視察のため五人の視学官を派遣する</p> <p>下中弥三郎著「子供至上論」刊</p>
		<p>九月 日露講話条約に調印</p> <p>——パティ・ヒル、コロンビア大学へ転出</p>

『婦人と子ども』第五卷

五月 京阪神三市連合保育会第十二回総会  
 七月 フレーベル会主催「夏期幼稚園保育法講習会」開催  
 — フレーベル会、幼稚園保姆の資格待遇に関する建議書を文部大臣に提出  
 — 女子師範保姆練習科、保姆実習科として再開さる  
 — 東京保姆養成所設立（多田房之輔により一橋幼稚園内）

三月 女子高等師範学校に保育実習科設置  
 四月 フレーベル会第十一回総会  
 同月 『婦人と子ども』誌、発行所を弘道館に変更  
 同月 横浜市保育法研究会発足  
 同月 長野、上田市梅花保姆伝習所開設（東京洋和女学院短期大学保育科）  
 五月 京阪神三市連合保育会第十三回総会  
 同月 日本女子大学校内に幼稚舎開設  
 六月 岡山、私立花畑小学校附属無料幼稚園の開設（岡山博愛会）

— プロウとヒル、コロンビア大学に於て公開講義始める（一九〇九年）

英国、「公教育の五歳児未満に関する婦人視学官の報告」刊（「五歳未満の教育は教授の学校よりむしろ保育学校であるべきである」と勸告される）

Binet, A. and Simon, T.: Sur la nécessité d'établir un diagnostic scientifique des états inférieurs de l'intelligence. 刊

三月 名古屋、熱田出征軍人遺族後援授産所開設  
 八月 「学校職員恩給審査規定」改正

— ゲゼル、クラーク大学の Ph. D. 取得

北田秋圃「小婦人」（オルコット著 D. Little Women の抄訳）刊

『幼年画報』創刊

明治三九  
 一九〇六  
 『婦人と子ども』第六卷

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治四〇 一九〇七 『婦人と子ども』第七 巻	(による) 八月 埼玉、日本煉瓦製造株式会社大寄工場に幼稚園開設。従業員 員の幼児を収容 九月 日本キリスト教幼稚園連盟(J・K・U) 結成 十一月 神戸市婦人奉公会が解散し、戦後記念保育会をつくり常 設の保育所を開設 — 東京市、貧困児童の小学校、乳児託児所兼備の施設を企画 中村五六著「保育法」刊 ハウ著「保育法講義録」刊 宮沢六郎著「保育の園」刊 二月 京都市立子守学校開設 三月 東京保姆伝習所一時閉鎖(のち東京府教育会附属保姆伝習 所として再出発。現竹早幼稚園教員養成所) 四月 「師範学校規程」制定(附属小学校及附属幼稚園を規定) 同月 フレーベル会第十二回総会 六月 京阪神三市連合保育会第十四回総会	一月 自由劇場設立 三月 「小学校令」改正(義務教育六年制) 同月 「小学校令施行規則」改正 八月 立教大学設立 — モンテッソーリ、「子どもの家」開設 — 米国において幼小関連への関心が次第に強くなる



明治四一  
一九〇八  
『婦人と子  
ども』第八  
卷

七月 『婦人と子ども』誌、発行所をフレibel会に戻す  
十月 大阪市保育会創立十周年記念式典挙行  
十二月 京都府峯町婦人会、子守共同遊戯所開設  
フレibel会編「幼児教育談話材料」刊  
フレibel会編「幼稚園遊戯」刊  
——和田実『婦人と子ども』誌の編集者となる  
四月 女子高等師範学校を東京女子高等師範学校と改称  
同月 「小学校令施行規則」一部改正  
同月 フレibel会第十三回総会  
同月 大阪市保育会主催「幼稚園保姆養成講習会」を府立女子師範学校内で開催  
同月 新潟、赤沢鍾美、新潟静修学校託児施設を「守孤扶独幼稚園児保護会」として本格的に保育事業を開始  
同月 東基吉、宮崎師範学校長に転任  
五月 静岡県保育会創立  
六月 京阪神三市連合保育会第十五回総会  
七月 フレibel会主催「幼児教育夏期講習会」開催

上田万年訳「安得仙家庭物語」(アンデルセンの訳)  
ハーン著「日本の子どもの歌」(わらべうたに関する  
エッセイ)  
四月 奈良女子高等師範学校開校  
十月 戊申詔書発布  
ハンナ・スミス著、皆川正禧訳「母の道、一名小児の  
教育」刊  
『婦人之友』創刊  
『少女の友』創刊  
Vandewalker, N. C.: The Kindergarten in Ame-  
rican Education. 刊

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
明治四二 一九〇九 『幼児教育 研究雑誌 「婦人と子 ども」第九 卷	十月 中央慈善協会（社会事業協会）、内務省主催の感化救済事 業講習会が開催されたのを機として、全国的組織として結成 —— 文部省審議委員会、五歳以下の幼児の保育施設の必要を報告 中村五六、和田実合著「幼児教育法」刊 ハウ編『頌栄幼稚園雑誌』創刊 一月 『婦人と子ども』を『幼児教育研究雑誌「婦人と子ども」』 と題する 四月 フレーベル会第十四回総会 同月 大阪府保育会主催「幼稚園保姆養成講習会」を府立女子師 範学校内で開催 同月 藤井利蒼が東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる 五月 黒田定治『幼児教育研究雑誌「婦人と子ども」』主幹とな る 六月 京阪神三市連合保育会第十六回総会 七月 大阪、岡山孤児院附属愛染橋保育所の開設（石井十次らに	三月 「市町村立小学校教育費国库補助法」改正 四月 東京盲学校設立 同月 「種痘法」公布 七月 文部省、学校施設に関し地方の実状を考慮し実 用を主とし教育の実質を重んじてその普及をはかる よう訓令 ——「有楽座子供日」始まる（毎週、土、日、祭日を 子供向けに開設） —— 第一回白亜館児童福祉会議開催 —— スタンレー・ホール、クラーク大学にプロイトと

よる)

同月 京阪神三市連合保育会協議「師範学校女子卒業生を直ちに  
保母として任用することに関する建議案」を其筋に提出

倉橋惣三「子供の嘘言」、『幼児教育研究雑誌「婦人と子ども』  
』に掲載される(九卷七号)(同誌に掲載された倉橋の最初の  
署名入り論文)

十二月 「市町村立幼稚園及保母ノ待遇ニ関スル件」制定(小学  
校本科正教員の資格を持つ市町村立幼稚園長、保母は判任文官  
と同一待遇が受けられるとする)

ラモラウ著、ハウ訳「開発的生活(児童教育法)」刊

明治四三  
一九一〇

『幼児教育  
研究雑誌

「婦人と子  
ども」第  
十卷

四月 フレーベル会第十五回総会  
同月 大阪市保育会主催「保母学力補充講習会」を府女子師範学  
校内で開催

五月 京阪神三市連合保育会第十七回総会

七月 安井哲、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる

八月 フレーベル会主催「幼児教育夏期講習会」開催

十二月 フレーベル会常集会において、和田実に加えて新たに倉

ニングを招く

岸辺福雄著「お伽噺の仕方の理論と実際」刊

日本日曜学校協会編「幼稚科第一年教師の友」第一輯  
刊

波多市松著「子どもの研究」刊

中央慈善協会「慈善」誌創刊(大正六年『社会と救  
済』大正十年『社会事業』と改題)

三月 文部省、修身教科書の修正編集の主旨及び修身  
教育の撤廃につき訓令

十二月 徳川大尉、代々木練兵場で三千メートル飛行  
に成功

米国、I・K・Uにて、幼稚園の論争に関する最  
終の報告が行われ、フレーベル主義に対して進歩派  
の勝利により論争が終結する

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
明治四四 一九一一 『婦人と子ども』第十 一卷	橋惣三が『幼児教育研究雑誌「婦人と子ども」』誌の編集担当幹事に選出される 頌栄編「日本に於ける幼稚園一覽」刊 東基吉著「保育法教科書」刊 一月 『幼児教育研究雑誌「婦人と子ども」』を再び『婦人と子ども』と題する 四月 フレーベル会第十六回総会 同月 京阪神三市連合保育会主催フレーベル祭開催 五月 京阪神三市連合保育会第十八回総会 七月 「小学校令施行規則」改正（保育項目の内容規定を削り、保育時間は管理者または設立者が定めて府県知事の認可を受けることとし、保母の免許状を得るには検定に合格することとし幼稚園の定員を増加するなど） 倉橋惣三、『婦人と子ども』に「机辺だより」と題して欧米諸氏の学説を紹介 「トララク大学の児童研究事業」	スタンレー・ホール著、元良勇次郎訳「青年期の研究」刊 Adams: Twenty years at Hall House. 刊 十月 市町村立小学校校長を特に委任官待遇とすることが可能となる 英国において、インツミラン姉妹、Open-Air Camp School 開設 米國、児童局（労働省）設置 Yale Clinic for Child Development 開設 中村秋人著「幼児保育、情と戯」刊 「立川文庫」刊行始まる Key: The Education of Child. 刊 Montessori: The Montessori Method. 刊

「タンネル氏の『保育上の三注意』」

「バルマー氏『保育法の基礎としての発達の原理』(以上十一卷一号)

「心理学の参考書について」

「ヒル氏の『幼稚園唱歌』(以上十一卷二号)

「幼稚園の改良」(スタンレー・ホール氏)(十一卷八号、十号、十一号)

「子供の人形(サリー氏)」(十一卷十二号)

明治四五

大正 元

一九一二

『婦人と子ども』第十

二卷

一月 倉橋惣三、「新しみ」『婦人と子ども』誌に掲載(幼稚園雑草所載)

四月 倉橋惣三、「モンテッソリの教育」『婦人と子ども』十二卷四号に掲載(この頃より同誌にモンテッソリの紹介始まる)

同月 フレーベル会第十七回総会

五月 奈良女子師範学校附属幼稚園設立

六月 京阪神三市連合保育会第十九回総会。倉橋惣三「幼児保育の新目標」と題して講演(『婦人と子ども』誌十二卷十号)に「幼児教育の新目標」として掲載(『幼稚園雑草』所載)

九月 大阪市保育会主催「夏期講習会」開催

七月 明治天皇崩御

——米国において Montessori 論議高まる(一九一

六)

永代静雄訳「アリス物語」(ルイス・キャロルのアリス二篇からの抄訳)

及川平治著「分団式動的教育法」刊

Jung, C. G.: Wandlungen und Symbole der Libido.

刊

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
大正 二 一九一三 『婦人と子ども』第十 三卷	同月 京阪神三市連合保育会建議書を文部大臣に提出 十二月 フレーベル会主催第一回幼児教育研究会開催、モンテッ ソリー教育法が研究される ——倉橋惣三、「机辺だより」を『婦人と子ども』誌に掲載（十 二巻一号） 「ブライアント氏の『話の仕方』（十二巻二号） 「グル・チンカス女史『人形遊びの実験』（十二巻三号） 「スタンレー・ホール氏『幼稚園教育』（十二巻四号） 三月 中央慈善教会懇話会開催（とくに幼児保育と細民救済の問 題を討議） 四月 仙台、青葉女学校保母科開設 六月 フレーベル会「幼稚園保母養成ニツイテ」の建議 同月 フレーベル会主催、第二回幼児教育研究会開催 七月 「小学校令」改正。教育、兵事、産業、衛生、慈善等の目 的に校舎、校地を使用できる旨を定める 同月 京阪神三市連合保育会「幼稚園保母養成機関ニ関スル建	一月 「学校体操教授要目」制定 六月 「教育調査会官制」公布 ——米国において幼稚園教育課（内務省）設置 ——モンテッソリー、英米訪問 ——ロシアにおける最初のモンテッソリー式幼稚園開 設 「愛子叢書」（一流文壇人による創作童話集） 刊行始

<p>大正 三 一九一四 『婦人と子 ども』第十 四卷</p>	<p>議 同月 京阪神三市連合保育会「幼稚園舎二階建ニ関スル建議」 同月 モンテッソリー教具、大阪天真堂より製作販売 和田実著「幼児保育法」刊</p> <p>二月 東京市保育研究会結成 三月 東京市保育研究会第一回講習会開催 四月 フレーベル会主催、フレーベル記念会開催 同月 青葉女学院幼稚園教員養成所設立 七月 京阪神三市連合保育会主催、モンテッソリー教育法講習会 開催 同月 京都市保育会主催、モンテッソリー氏講演会開催</p>	<p>キ 中勘助、大阪朝日に「銀の匙」連載（子どもを題材とした本格小説の出現） 野上弥生子訳「伝説の時代」（キリシヤ・ローマ神話の子ども向け訳出）刊 Dewey, J.: Interest and Effort. 中 Watson, J. B.: Psychology as the Behaviorist Views It. 中 I. K. U.: The Kindergarten, Reports of the Committee of Nineteen on the Theory and Practice of the Kindergarten. 中 八月 第一次世界大戦参戦 『子供之友』（日本で最初の幼児の絵雑誌）創刊 『少年倶楽部』創刊 Kiipatrick, W.: The Montessori Method Examined. 刊</p>
---	---	--

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
大正 四 一九一五 『婦人と子ども』第十 五巻	八月 フレーベル会主催、第五回幼児教育夏期講習会開催 九月 明石女子師範学校で保姆養成講習会、一期（六カ月間）で 廃止 十一月 東京市保育研究会第一回集会開催 十二月 京阪神三市連合保育会、建議中不採択の三件を再建議 河野清丸著「モンテッソーリ教育法と其応用」刊 清水常次郎著「モンテッソーリ女史、子供の家」刊 二月 東京市保育研究会第二回講習会開催 四月 神戸市保育会主催、感覺教育の意義及価値についての講演 会開催 八月 フレーベル会主催、第一回全国幼稚園関係者大会開催 同月 フレーベル会主催、第六回幼児教育夏期講習会開催 九月 フレーベル会「幼稚園保姆ノ資格、待遇 ニツイテ」の建 議、全国幼稚園関係者大会の決議にもとづき、同大会議長であ ったフレーベル会会長より文部大臣に提出 十一月 第二回全国教育者大会保育部会開催	四月 中村春二、成蹊小学校創立 ——シカゴ両親協同保育所開設 ——ゲゼル、Yale Clinic 所長に就任（一九四八） 及川平治著「分団式各科動的教授法」刊 小松耕輔、梁田貞、葛原國共編「大正幼年唱歌」刊 巖谷小波著「桃太郎主義の教育」刊 Dewey: Schools of Tomorrow. (一九二〇年代の進 歩主義教育の実践紹介) 刊



——二葉幼稚園を二葉保育園と改称——

河野清丸著「モンテッソリー教育法真髓」刊

四月 東京麹町、玉成保母養成所開設（玉成高等保育学校）  
八月 文部省、幼稚園保母講習会開催

大正 五  
一九一六  
『婦人と子ども』第十  
六卷

一月 「教育費国庫支弁に関する建議案」議会に提出、可決

十一月 文部省内に学校衛生会を設置  
——スーザン・プロウ死す

原田実訳「エレン・ケイ児童の世紀」刊

高木敏雄著「童話の研究」刊

『婦人公論』創刊

Kilpatrick, W.: Froebel's Kindergarten Principles,

Critically Examined. 冊

Terman, L. M.: Measurement of Intelligence. 冊

Dewey, J.: Democracy and Education. 冊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
大正 六 一九一七 『婦人と子ども』第十 七巻	五月 東京目黒に児童叢養研究所設立（北垣守） 六月 東京、久保良英ら児童研究所設立 同月 京阪神三市連合保育会「幼稚園長及保姆ニ疾病療治料ヲ給与セラレタキコトニツイテノ建議」 八月 文部省、幼稚園保姆講習会を開催 同月 内務省地方局に救護設置（所管事項第三に育児院を含む） 九月 岡山女子師範学校附属幼稚園で改良服（通園服）制定 十一月 倉橋惣三、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる 土川五郎著「律動遊戯」第一集刊 ヴィギン、スミス共著、ハウ訳「幼稚園原理と実習」刊 二月 倉橋惣三、『婦人と子ども』誌の主幹となる 三月 誘導保育の最初の実践例「動物園あそびの記」が『婦人と子ども』に掲載される（十八巻三号 署名とよ子） 同月 大阪市社会局に日本最初の児童課設置 四月 東京賛育会設立（妊産婦と乳幼児の健康相談はじめる）	四月 成城小学校開校 七月 軍事救護法公布 九月 臨時教育会議設置、教育調査会を廃止 十月 ロシア革命 十一月 臨時教育会議、小学校に関して答申（第一回） 十二月 臨時教育会議、小学校に関して答申（第二回） 鈴木三重吉編著「世界童話集」刊行開始 北垣守『児童』創刊 久保良英ら『児童研究紀要』創刊 クルプスカヤ著「国民教育と民主主義」刊 三月 「市町村義務教育費国庫負担法」公布 四月 「市町村義務教育費国庫負担法施行規程」制定 五月 臨時教育会議、小学校教育に関して答申（第三回） 八月 シベリア出兵

六月 東京府、女工三十名以上を雇用する工場主百余名を招集し、乳幼児の昼間保育所の設置を協議

同月 内務省、救済事業調査会設置（乳幼児の保護施策が重要事項とされた）

八月 文部省、幼稚園保姆講習会開催

十月 フレーベル会、「日本幼稚園協会」と改称

十一月 京阪神三市連合保育会、従来の建議中不採択のものを再建議

十二月 日本幼稚園協会、「幼稚園長及幼稚園保姆ノ年功加棒及疾病療治料ニ関スル建議」

同月 第二回全国幼稚園関係者大会開催

同月 名古屋市保育会発足

土川五郎著「律動遊戯」第二集刊

ブレーク著、岩村清四郎訳「フレーベル伝」刊

エセル・エーチコレル編「幼稚園宗教科課程」刊

「新作幼稚園唱歌」刊

高崎能樹著「母のため子供の心」刊

同月 富山県で米騒動起る

十月 大阪府「方面委員規程」制定公布

鈴木三重吉編、創作童話雑誌『赤い鳥』創刊

Kilpatrick, W.: The Project Method. 発表（この論

文を契機に全米各地で進歩主義教育の新しいカリキュラム作りが盛んとなる）

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
大正 八 一九一九 『幼児教育』 第十九卷	一月 『婦人と子ども』誌、『幼児教育』と改題 同月 二十九幼稚園「改良と計画と理想」と題して、幼稚園改良 に関するアンケート調査が『幼児教育』第十九卷一号に掲載さ れる（この頃からアンケートが誌上に現れる） 同月 日本幼稚園協会、全国各地保育会へ加盟勧誘 四月 「私立学校用地免租ニ関スル法律」公布（私立幼稚園など の地租免除） 七月 大阪市立児童相談所設置 八月 「学校伝染病予防規程」公布（学校幼稚園伝染病予防及消 毒方法廃止） 同月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 九月 東洋英和女学校幼稚園師範科開設 十月 京阪神三市連合保育会主催「第二回全国幼稚園関係者大 会」。この大会決議にもとづき「保姆ノ資格及待遇ニ関スル件」 を再建議 十二月 奈良女子高等師範学校に保姆養成所設置 同月 貴族院議員、伯爵林博太郎外十五名と大阪市保育会長連名 で「幼稚園保姆ニ対シ年功加棒下附ノ件」建議 同月 藤井利菅、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる 同月 倉橋惣三外遊（大正八月十二月）大正十一年三月	二月 大原社会問題研究所設立 四月 山本鼎ら長野県小諸で第一回児童自由画展開催 自由画教育運動おこる 五月 「臨時教育委員会官制」公布（臨時教育会議官 制廃止） 十一月 内務省地方局救護課を社会課と改称 —— 米国において進歩主義教育協会設立（米国各地で 進歩主義教育の各種の実践がすすむ） —— 英国においてフィッシャー法制定（ナーズリー・ スクールの制度化） —— マクミラン姉妹のナーズリー・スクール、教育院公 認となる —— ソ連において就学前教育に関する第一回全ロシア 研究大会開催（社会主義国家における幼稚園の性格 を検討するため、一九二一、二四、二八年にも開催 される） 千葉命吉著「創造教育の理論及び実際」刊 沢柳政太郎著「児童語彙の研究」刊 三田谷啓著「一人子の研究」刊

土川五郎著「大正幼年唱歌表情遊戯」刊

I. K. U.: The Kindergarten Curriculum. 刊  
Watson, J. B.: Psychology from the Standpoint of  
a Behaviorist. 刊

大正 九

一九二〇

『幼児教育』

第二十卷

四月 東京府に児童保護委員設置

六月 第五回全国社会事業大会「更ニ多クノ保育所ヲ設クルコト」を決議

七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催

同月 「学生生徒児童身体検査規定」制定

八月 内務省に社会局設置（「児童保護ニ関スル事項」あり）

四月 千葉師範学校附属小学校全学級に自由教育を實施

九月 野口雨情を中心に「東京童謡研究会」発足

十二月 山本鼎、北原白秋ら「日本自由教育協会」結成

——ドルトン・プラン（パークスト女史）公表

服部北溟著「子供のおもちゃ教育」刊

大正一〇

一九二一

『幼児教育』

第二十一卷

三月 「公立学校幼稚園及図書館職員退職料等ニ関スル件」改正

五月 第三回全国幼稚園関係者大会において、大阪市保育会が

「幼稚園保育ニ対シ其標準トナルベキ要目ヲ制定セラレンコトヲ文部大臣ニ建議スルコト」を提案し可決、大会において児童

一月 社会事業調査会設立

四月 羽仁説子、自由学園設立

同月 メートル法採用

六月 東京博物館設立

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
大正一一 一九二二 『幼児教育』 第二十二卷	<p>擁護の宣言書を採択</p> <p>同月 広島県社会事業協会児童相談所開設</p> <p>六月 「東京市託児保育規定」制定施行</p> <p>十一月 全国保育者大会開催。「幼稚園教育令及その他施行規則を制定せられん事を建議すること」「幼稚園の保姆養成の程度及其の資格待遇を高めることを当局に建議すること」が議題</p> <p>同月 帝國教育会主催、全国保育者大会開催「幼稚園令の制定」「託児所の設置奨励」などを決議</p> <p>同月 大阪市保育会、大阪市立市民博物館で玩具展覧会開催</p> <p>同月 日本幼稚園協会「幼稚園保姆ノ待遇改善ニ関スル建議」を決議</p> <p>同月 日本幼稚園協会主催児童保護宣伝事業実施</p> <p>同月 「大阪市託児所規程」公布</p> <p>三月 幼稚園令制定要求の陳情が幼稚園関係者間に活発となる</p> <p>同月 倉橋惣三、再度東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる</p> <p>四月 岡山県女子師範学校保姆養成講習会開催</p>	<p>七月 「教育評議会官制」公布（臨時教育委員会官制廃止）</p> <p>同月 神戸市立児童相談所開設</p> <p>八月 横浜市立児童相談所開設</p> <p>—— コロンビア大学実験保育学校開設</p> <p>—— 『早稲田文学』に童話論の掲載目立つ</p> <p>『芸術自由教育』創刊</p> <p>北原白秋「まざあ・ぐうす」訳出</p> <p>山本鼎「自由画教室」刊</p> <p>二月 ワシントン条約</p> <p>五月 「学校衛生調査会官制」公布</p> <p>七月 日本童話協会設立（全国的に実演童話の会を組織）</p>

<p>大正一二 一九二三 『幼児教育』 『幼児の教育』第二十 三卷</p>	
<p>五月 橋詰良、池田市に「家なき幼稚園」開設 七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 九月 「女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ関スル件」訓令、幼稚園保姆に対しても準備 十一月 第二九回京阪神三市連合保育会の決議により、大阪市保育会長、文部大臣に建議</p> <p>二月 第四十六帝國議會において衆議院に幼稚園令制定の請願。 その採択が決議さる 四月 大宮、愛仕母学会（ミス・アプタン）による保姆養成機関）開設 七月 『幼児教育』誌、発行所、教文書院となる 同月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 九月 『幼児教育』誌、『幼児の教育』と改題</p>	
<p>十二月 文部省、小学校教育費の整理、節約を訓令 ——ラッグル通り保育学校開設 ——メリル・パーマー保育学校開設 田子一民著「社会事業」刊 『週刊朝日』『サンデー毎日』創刊 『ユドモノクニ』創刊 『童話研究』刊行始まる I. K. U.: The Kindergarten Primary Curriculum. 刊 Johnson, H.: A Nursery School Experiment. (青木誠四郎訳「保育学校の實際研究」大正一三年)</p> <p>二月 東京市江東橋児童相談所開設 三月 義務教育国庫負担金を四千万円に増額、学齡児童の就業を禁止 五月 帝國連合会教育会、義務教育八年制を決議 八月 盲学校及聾啞学校令公布 九月 関東大震災 十一月 「国民精神作興に関する詔書」換発</p>	

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
	<p>同月 関東大震災のため、東京府、東京市、宗教団体・公私の諸団体・私設託児所を設け、また妊産婦の保護につとめる</p> <p>十一月 『幼児の教育』十、十一月号、震災のため休刊</p>	<p>——ロックフェラー基金 (Spelman Funds) が児童養育と両親教育のために用意されることになる(一九三八)</p> <p>——英国において、保育学校協会結成される(会長、マーガレット・マタミラン)</p> <p>松村武雄著「児童教育と児童文芸」刊</p> <p>帝国教育会編「ダルトン案の批判的研究」刊</p> <p>生江孝之著「児童と社会」刊</p> <p>木下竹次著「学習原論」刊</p> <p>芸術教育会編『芸術教育』創刊</p> <p>『文芸春秋』創刊</p> <p>Hill, P. S.: A Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade. 刊</p> <p>Plaget, J.: Le langage et la pensée chez l'enfant. 刊(英訳 The Language &amp; Thought of the Child. 一九二六年。大伴茂による日本訳一九五四年、波多野完治によるピアジェ紹介は一九二七年より始まる)</p>



大正一三  
一九二四  
『幼児の教育』第二十  
四卷

一月 『幼児の教育』一〇三号休刊

七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催

十月 第四回全国幼稚園関係者大会に大阪市保育会が、建議書の提出を提案し可決。「幼児教育の振興ヲ期スル為メ速ニ幼稚園に關スル法令ヲ改正セラレンコトヲ其筋ニ建議スルコト」文部大臣に建議

十二月 堀七藏、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる

——東京女子高等師範学校附属幼稚園、お茶の水の敷地内、バラック建築仮保育所にて保育

万国幼稚園協会編、日本幼稚園協会訳「幼稚園保育要旨」刊

森川正雄著「幼稚園の理論及実際」刊

ジョンソン著、青木誠四郎訳「保育学校の実際研究」刊

万国幼稚園協会編、日本幼稚園協会訳「幼稚園及小学校保育要

目」刊

二月 日本労働総同盟大会で、無産階級児童日曜学校普及の件可決

四月 野口援太郎ら「池袋児童村」を創設し、新教育を実施

同月 「文政審議会官制」を公布（教育評議会官制を廃止）

五月 赤井米吉、明星学園小学校創立

六月 築地小劇場創立（その十八回公演として児童劇上演さる）

九月 「学校伝染病予防規程」制定

——英国において、S・アイザックスMalting House 実験学校を始める（一九二七）

——スタンレー・ホール死す

——英国においてハドレー委員会任命（“for all”の教育理想を政策に移すために）

——コロンビア大学の児童福祉研究所開設（Spelmann Funds による最初の研究所、その後、米国各地に児童研究所設立）

——ニイル、サマーヒルを開設

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
大正一四 一九二五 『幼児の教育』第二十 五卷	一月 堀七蔵『幼児の教育』誌の主幹となる 同月 東京保育会結成 三月 第五十回帝國議會衆議院に、「幼稚園令及び同施行規則 制定に関する建議案」が提出され可決 五月 『幼児の教育』誌の発行所、日本幼稚園協会となる 同月 第七回全国社会事業大会開催、児童保護法制定に関する建 議 同月 及川ふみ「八百屋あそび」（誘導保育実践例）が『幼児の 教育』に掲載される（二十五卷五号） 六月 全国保姆代表者協議会発足 同月 児童愛護会設立、大震災児の保育が目的、恩賜金を基金と する 七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催	青木誠四郎著「児童心理学」刊 『子供の科学』創刊 Association for Childhood Education International より幼児教育雑誌 Childhood Education 創刊 一月 文政審議会、学校における軍事教育実施案を可 決 四月 治安維持法公布 五月 普通選挙法公布 七月 ラジオ放送開始 九月 帝國議事堂全焼 ——プロレタリア児童文学運動興隆 Parker, A. & Temple, F.: Unified Kindergarten and First Grade Teaching. 刊 （幼児教育における進歩主義教育の代表的図書）

十月 文部省、全国幼稚園調査を行なう

同月 第三十二回京阪神三市連合保育会、文部大臣に電報打電を決議「幼稚園令制定はあらかじめ提出せる全国保育会の意見にそうよう御努力を乞う」

十二月 文部省は文教審議会に、幼稚園令を制定することを諮問

フレーベル著、ハウ訳「人の教育」刊

オーエン著、鎌塚扶訳「幼児教育の新研究」刊

大和喜栄「入学前に施す愛児の教育」刊

苦瓜恵三著「幼児教育の原理と其の方法」刊

青木誠四郎著「幼児の研究」刊

大正一五

昭和 元

一九二六

『幼児の教育』第二十  
六卷

一月 文政審議会、幼稚園令制定の件について答申

四月 「幼稚園令」公布。「小学校令」を改正。「幼稚園令施行規則」を制定。「小学校令施行規則」を改正

同月 「公立幼稚園ノ園長及保母ノ待遇ニ関スル件」公布（市町村立幼稚園長及保母ノ待遇ニ関スル件を廃止）。公立幼稚園の園長、保母を判任官待遇とする

同月 東京保育女学院（東洋英和女学校教師範科に合併）開設

七月 「工業労働者最低年齢法」施行、学龄児の就業禁

止

十二月 大正天皇崩御、昭和と改元

——小川未明、「今後を眞話作家に」と宣言

——全米の両親教育会議（N.C.P.E.）結成される  
（両親教育への関心高まる）

——米国におけるナースリースクール関係の公的な会

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
<p>六月 「市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ学校幼稚園及児童教育事務委託ノ存続ニ関スル件」を廃止</p> <p>同月 幼稚園令発布記念全国幼稚園大会開催（於東京女子高等師範学校、主催・帝國教育会、全国連合保育会、日本幼稚園協會、京阪神三市連合保育会、東京保育会、東京市保育会）</p> <p>七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催</p> <p>九月 福岡市保育会結成</p> <p>十一月 島根県保育会結成</p> <p>十二月 第一回全国児童保護事業會議開催。この時保育所設置にともなう幼稚園令改正に関する建議を行なう</p> <p>倉橋惣三著「幼稚園雜草」刊</p> <p>ノラ・アウトウッド著、馬場定一訳「理想の幼稚園、いかにすれば保育の理想は實際化されるでせうか」刊</p> <p>帝國教育研究会編「新令解釈幼稚園研究」刊</p> <p>緋田工著「託児所の経営と其教育の基調」刊</p> <p>土川五郎著「律動遊戯」刊</p>	<p>議が初めてもたれる</p> <p>—National Association of Nursery Education (N.A.N.E.) 結成</p> <p>日本「現代日本文学全集」刊</p> <p>Neil: 'The Problem Child' 刊</p> <p>Piaget: (trans. Gabain, M. &amp; R.) 'The Language and Thought of Child. (英語と子どもの最も初の紹介) 刊</p>	

<p>昭和 二 一九二七 『幼児の教 育』第二十 八卷</p>	<p>五月 第一回乳幼児愛護会 七月 大阪乳幼児保護協会結成 同月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 同月 関東婦人同盟結成「公費による託児所、助産院の設置」 のスローガンを掲ぐ 十月 群馬県保育会結成 十二月 第一回全国児童保護事業大会 ——この頃より農繁期託児所急増 観察絵本『キンダーブック』創刊（幼稚園との直販形式）</p>
<p>一月 関西連合保育会結成（京阪神三市連合保育会、吉備保 育会、名古屋市保育会） 三月 吉備保育会主催全国幼児教育研究者大会開催 四月 千葉県教育会内に、幼稚園保姆養成所開設（千葉女子師範 学校保姆養成科となる） 七月 文部省、保姆講習会開催</p>	<p>十二月 上野～浅草間地下鉄開通 ——米国におけるナースリースクール（保育学校）へ の関心高まる アルス「日本児童文庫」刊 『赤い鳥』休刊</p>
<p>高田慎吾著「児童問題研究」刊 日本両親再教育協会編「子ども研究講座」全十巻刊 ソ連、雑誌『児童学』（一九三二）及び『就学前教 育』創刊 Bühler, Ch.: Kindheit und Jugend. 刊 Gesell, A.: Infancy and Human Growth. 刊</p>	

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和四 一九二九 『幼児の教育』第二十 九卷	<p>十一月 第三回全国教育大会保育部会開催  同月 全国保育者大会保育部会開催（御即位記念）  同月 日本女子大学校、児童研究所設立</p> <p>倉橋惣三著「幼児の心理と教育」（昭和三、四年『子供研究講座』に連載）</p> <p>高崎能樹、月刊保育雑誌『子供の教養』創刊（昭和十六年まで続き休刊。昭和二一年再刊、昭和二八年まで）</p> <p>橋詰良一著「家なき幼稚園の主張と実際」刊</p> <p>森川正雄著「幼稚園託児所育児法」刊</p> <p>杉田徳太郎著「母と教師のための遊戯教育の実際」刊</p> <p>三月 「学校医幼稚園医及青年訓練所医令」公布  同月 大日本育児協会設立  七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催  同月 日本仏教保育協会結成  九月 東京保姆専修学校（東京保育専修学校）開設  十月 「学校看護婦ニ関スル件」訓令、幼稚園も準拠</p>	<p>四月 救護法公布  八月 朝日新聞社社会事業団、優良農村託児所助成開始  ——人形劇団ブーク第一回公演  山下徳治著「新興ロシアの教育」刊</p>

倉橋惣三著「児童保護の教育原理」、生江孝之著「児童保護施設」

〔「社会事業大系」第二巻に所載〕

福永盾雄、福永津義共著『幼児教育の実際』刊

昭和五 五月 東京、貞静学園保姆科開設（貞静学園高等保育学校）

一九三〇 七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催

八月 婦人セツルメント開設（十月、託児所を開設）

十月 東京目白保姆学校開設（現東京保育専修学校）

同月 この頃より公立託児所が市民館に併合される

十一月 帝国教育会主催第二回全国保育大会開催

同月 倉橋惣三、三度東京女子高等師範学校附属幼稚園主事となる

同月 第二回全国児童保護事業会議開催、「託児所令制定に関する件」がとりあげられる

十二月 倉橋惣三『幼児の教育』誌の主幹となる

——東京、本派本願寺保母養成所開設

木下一雄著「幼稚園実際の保育学」刊

十一月 文部省「家庭教育振興ニ関スル件」訓令

鈴木治太郎著「智能測定法」刊

California State Department: Teacher's Guide to

Child Development. 刊

National Research Council (society for research in child development) R Y Child Development. 創刊

Issacs, S.: Intellectual Growth in Young Children.

刊（マルチングハウス実験学校の実践報告。英国の幼児教育者の必読書となっている）

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和 六 一九三一 『幼児の教育』第三十卷	関寛之著「玩具と子供の教育」刊 菊池フジノ、徳久孝子共著「人形芝居脚本集」刊 『基督教幼稚園連盟時報』誌創刊 堀七蔵著「欧米の幼稚園低学年教育の実際」刊  三月 全国農民組合第四回全国大会、行動綱領として「国庫負担による無料診療所、無料託児所等の設置」決議 四月 平田のぶ、子供の村保育園開設 五月 中国四国九州保育連盟結成 六月 「学校歯科医及幼稚園歯科医令」公布 七月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 同月 基督教保育連盟結成 八月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 十月 第五回全国幼稚園関係者大会開催 十一月 無産者託児所設立準備会、荏原無産者託児所設立 ——この年より労働運動の一環として託児所設置の要望高まる 森川正雄著「幼稚園の経営」刊	八月 日本最初のトーカー「マダムと女房」封切さる 九月 満州事変おこる ——街頭紙芝居「黄金バット」に人気 ——米國 I. K. U. は全国小学校教育会議 (N. C. P. E.) と連合して、児童教育協会 (ACE) に改組する ペイン著「あそびましょう」刊 久保良英著「児童心理学」刊 波多野完治著「児童心理学」刊 有坂與太郎著「日本雛祭考」刊 有坂與太郎著「日本玩具史」刊 『赤い鳥』復刊 Goodenough, F. L. & Anderson, J. E.: Experimental



倉橋惣三著「就学前の教育」刊(岩波講座「教育科学」所載)

Child Study. 刊

Shirley, M.: The First Two Years. 刊

昭和 七

一九三二

『幼児の教育』第三十

二卷

二月 亀戸無産者託児所設立

四月 吾孀無産者託児所設立

五月 菊池フジノ「人形の家」が『幼児の教育』誌に掲載される  
(第三十二卷五号)

七月 徳久孝子「わたくし達の自働車」が『幼児の教育』誌に掲載される(第三十二卷七号)

八月 社会大衆婦人同盟結成、政策のひとつに「無料託児所」設置を入れる

十一月 新庄よしこ「旅へ」が『幼児の教育』誌に掲載される  
(第三十二卷十一号)(このころ誘導保育がさかに行われるようになる)

同月 文部省、幼稚園保姆講習会開催

同月 京都、成安女子学院保姆科開設

同月 全国隣保事業並に保育事業協議会、保育所令制定に関する建議を行なう

同月 全国育児事業協会結成

一月 救護法施行

同月 上海事変おこる

二月 「学校医の資格及職務ニ関スル規程」改正、「学校医職務規程」「学校歯科医職務規程」制定

三月 満州国建国宣言

五月 五・一五事件

同月 「市町村立小学校校長及教員名称及待遇」改正

七月 社会大衆婦人同盟世界自由教育大会

九月 「市町村立尋常小学校費臨時國庫補助法」公布

同月 「学校給食実施ノ趣旨徹底方並ニ学校給食臨時施設方法」訓令

十二月 日本母性協会結成

有坂與太郎著「五月人形」刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和 八 一九三三 『幼児の教育』第三十三卷	小川正行著「フレイベルの生涯及思想」刊 和田実著「実験保育学」刊 「保育叢業」全三巻刊 山内勇仙『保育研究』創刊（昭和一六年八月まで） 一月 東京女子高等師範学校附属幼稚園、大塚現在地で保育を始める 四月 兵庫、欽松学園（保姆養成所）開設 六月 東大セツルメントを中心に「児童問題研究会」発足 八月 倉橋惣三「幼稚園保育の真諦並に保育案、保育過程の実際」（日本幼稚園協会夏期講習会速記録）が『幼児の教育』誌に掲載される（第三十三巻八・九号） 永沢義憲著「幼稚園教育の実際」刊 パティ・S・ヒル著、大阪保国会訳「コロンビヤ大学附属幼稚園及び低学年級の課程」刊	一月 学校放送（幼稚園ラジオ）開始 三月 国際連盟脱退 四月 「児童虐待防止法」公布 五月 児童擁護協会設立 同月 「少年救護法」公布 プロレタリア児童文学運動解体。集団主義・生活主義童話へ転換 米國緊急保育学校プログラム発足（世界恐慌で失業した教師及び失業者の子どもを救済するための連邦政府による幼児プログラム） 英國 Hadow Report 提出される（幼児教育にお

倉橋惣三著「幼年期の宗教教育」(『宗教生活叢書』所載)  
児童問題研究会「児童問題」創刊

昭和九  
一九三〇  
『幼児の教  
育』第三十  
四卷

三月 恩賜財団愛育会(母子愛育会)設立  
五月 中央社会事業協会「季節保育所施設標準」発表  
六月 第三回全国児童保護事業大会開催、保育所令制定に関する  
研究会の継続を決議  
八月 倉橋惣三「保育項目の実際」(『夏期講習会速記録』、『幼児  
の教育』に掲載される(第三十四卷八・九号))  
十一月 牛島義友「児童心理学文献抄」、『幼児の教育』第三十四  
卷十一号より連載始まる  
同月 「学校職員表彰規定」制定、学校幼稚園青年訓練所職員で  
教育者の亀鑑となる者を文部大臣が表彰  
十二月 「学校建築物ノ營繕並ニ保全ニ関スル件」制定。幼稚園  
は一階とし、室には出入口二以上設け、運動場などの空地に通  
じることなど規定

同月 横浜聖徳保母養成所開設(横浜聖徳保育学校)  
——文部省、幼稚園保母講習会開催

けるインフォーマル教育を強張した政府勸告)

酒井欣著「日本遊戯史」刊

十月 「非常災害ニ対スル教育ニ関スル件」訓令  
——クルト・レビン、E・H・エリックソン等、ナチス  
・ドイツを逃れて米国に移住

淡路園治郎著「幼児性行評定尺度」刊  
Gesell, A.: Infant Behavior, Its Genesis and Gro-  
wth. 刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和一〇 一九三五 『幼児の教育』第三十 五卷	倉橋惣三、新庄よしこ共著「日本幼稚園史」刊 倉橋惣三著「幼稚園保育法真諦」刊 山中六彦著「保育事業と農繁期託児所」刊 中央社会事業協会「保育所（常設）に関する調査」季節保育所に 関する調査」刊 堀七蔵著「幼児保育の諸問題」刊 山本猛著「幼稚園託児所保育学綱要」刊 稲村玉雄、水木梢共著「素敵に新しい幼児の遊ばせ方と学ばせ 方」刊 社会事業研究所「季節保育所施設標準」刊 植村義一郎著「託児所経営の理論と実際」刊 三月 「六大都市立学校幼稚園ニ関スル認可特例」制定 同月 「学校医幼稚園医及青年訓練所医例」改正 同月 第六回全国幼稚園関係者大会開催 同月 札幌、北星女学校保育専攻科（北星学園付設幼稚園教諭養 成所）開設	四月 学校放送（全国向け）開始 十一月 「教学刷新評議会官制」公布（文政審議会官 制廃止） ——ソ連、児童学批判はじまる（五〇年代）

同月 東京、仏教保育協会中野保母養成所（宝仙学園短期大学）

開設

七月 岩手県女子師範学校講習科開設

同月 文部省、幼稚園保母講習会開催

八月 倉橋惣三「幼児性情の涵養」（夏期講習会速記録）、『幼児の教育』に掲載される（第三十五卷八・九号）

十一月 「学校ニ於ケル宗教的情操ノ涵養ニ関スル件」を通牒

倉橋惣三著「玩具教育編」刊

東京女子高等師範学校附属幼稚園編「系統的保育案の実際」刊

林茂香著「幼児の見聞」刊

戦役記念保育会編「三十年を顧みて」刊

ペスタロッチ著、皇至道訳「幼児教育の書翰」刊

朝原梅一著「幼稚園託児所保育の実際」刊

アリス・G・ソーン著、高森富士子、伴きみ子共訳「幼児の音楽」刊

オリブ・ジョーンズ著、福島重義訳「児童の宗教経験」刊

マンホード著、加藤常吉訳「幼児の宗教心の目ざめ」刊

沖野若三郎著「育児日記から」刊

愛育会編「愛育読本」刊

小林宗作著「総合リズム教育概論」刊

愛育会「愛育」創刊

年 号	日 本 の 幼 児 保 育 事 項	関 連 事 項
昭和一一 一九三六 『幼児の教育』第三十 六卷	三月 系統的保育案の實際解説が『幼児の教育』に連載される (第三十六卷三号より) 四月 仙台、尚綱女学校専攻部保育科(尚綱女学院短期大学保育科)開設 六月 大毎社会事業団を中心に全日本保育連盟結成 八月 倉橋惣三「保育案」(夏期講習会速記録)、『幼児の教育』に掲載される(第三十六卷八・九号) 十月 保育問題研究会発足 同月 文部省、幼稚園保姆講習会開催 十一月 全日本保育連盟、大毎社会事業団主催による全日本保育大会で、託児所令要綱答申 倉橋惣三著「育ての心」刊 ヒル編、高森富士子訳「幼稚園及び低学年の行為課程」刊 スペン・ロ克蘭ツ著、安間公観訳「幼児身体保育の實際」刊 武見太郎、中野佐三共著「幼児の教育」(児童教育講座第七卷)刊 基督教保育連盟『基督教保育』創刊 浦辺史著「学齡前児童の諸問題」刊 中央社会事業協会社会事業研究所編「常設保育所の栞」 「常設保育所施設標準」刊	二月 二・二六事件おこる 愛育会「愛育叢書」全五輯刊 長田新著「ベスタロッチ」刊 千葉胤成著「幼児の精神」刊 シュテークル著、浅羽武一訳「母に与へる書(幼児教育に関する考察)」刊 ベスタロッチ著、鮫坂二夫訳「育児日記」刊 波多野完治著「子供の道徳」刊 『赤い鳥』終刊

昭和二二  
一九三七  
『幼児の教  
育』第三十  
七卷

三月 東京府私立幼稚園連盟結成（私立幼稚園協会）  
八月 倉橋惣三「幼児教育の文化性」（夏期講習会速記録）、『幼児の教育』に掲載される（第三十七卷八・九号）  
十一月 全日本保育連盟並大毎社会事業団主催による全日本保育大会、保育令制定及び二カ年間の幼稚園保育の義務化など建議  
—— 文部省、幼稚園保母講習会開催

霜田静志編「幼児教育全集」全八巻刊  
岩手県女子師範学校郷土室編「岩手県保育発達史」刊  
森川正雄著「保母用教育学」刊  
フレーベル著、長田新訳「フレーベル自伝」刊  
倉橋惣三著「幼児期の教育総説」（『幼児教育全集第一巻』所載）刊  
小林宗作著「幼な児の為のリズムと教育」（霜田静志編「幼児教育全集」第七巻所載）刊  
松石治子著「指導日案総合保育」刊  
「幼児教育全集」全八巻刊  
全日本保育連盟『保育』創刊

一月 「学校身体検査規程」制定  
五月 「文教審議会官制」公布（教学刷新評議会官制廃止）

同月 教育科学研究会結成  
七月 日華事変おこる  
八月 第七回世界教育会議開催（於東京帝国大学）

山下俊郎著「一人子の心理と教育」刊  
Terman, L. M. & Merrill, M. A.: The New Revised Stanford-Binet Tests of Intelligence. 刊  
Raymont, T.: A History of the Education of Young Children. 刊  
Minor, R.: Early Childhood Education, Its Principles and Practices. 刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和一三 一九三八 『幼児の教育』第三十八卷	城戸幡太郎編『保育問題研究』創刊 一月 厚生省設置、及び省内に「児童課」設置 七月 恩賜財団愛育会、愛育隣保館開設（四月に閉鎖した東大セツルメントを受けつく） 十月 第七回全国幼稚園関係者大会開催 十一月 恩賜財団愛育会に愛育研究所付設 十二月 教育審議会「国民学校、師範学校及幼稚園ニ関スル要綱」を答申 —— 文部省、幼稚園保姆講習会開催 —— 愛育研究所「乳幼児精神発達検査規準」完成（牛島義友ら） 倉橋惣三著「フレイベル」刊 山下俊郎著「幼児心理学」刊 土川五郎著「幼児の遊戯」刊	四月 「國家総動員法」公布 同月 「國民健康保健法」制定 —— 内務省警保局より「児童読物改善ニ関スル指示要綱」出さる 山下俊郎著「教育環境学」刊 Dewey, J.: Experience and Education. 刊



<p>昭和一四 一九三九 『幼児の教育』第三十 九卷</p>	<p>四月 保育問題研究会のモデル保育所として戸越保育所開設 六月 奈良女子高等師範学校に奈良特設幼稚園保母養成科設置 十月 第七回全日本幼稚園関係者大会開催、「保母養成機関の設置」「保母の待遇を小学校本科正教員と同等にすること」など 建議</p> <p>城戸幡太郎著「幼児教育論」刊 船本数江著「季節保育所指針」刊 大阪市幼稚園共同研究会第六区編「構成成分を主としたる幼稚園遊戯の保育要諦」刊 坂内ミツ著「幼稚園の生活」刊 牛島義友他著、愛育研究所編「乳幼児の精神発達」刊</p> <p>一月 『幼児の教育』、母親のための読み物「月刊幼児の母」の 併載始める（母親教育、家庭教育をめざしたもの）</p>	<p>三月 国民精神総動員委員会官制 四月 「米穀配給統制法」公布 五月 「小学校武道指導要目」制定 八月 英国、第一次学童疎開始まる（一〇パーセントの児童参加） 九月 第二次世界大戦起る ——フロイト死す ——ソ連、「幼稚園教育の指導書」刊行（教師の役割重視される）</p> <p>国際建築特集「新託児所建築」刊 婦人之友編輯局「幼児の生活と教育」刊 依田新著「児童観と児童研究」刊 全国育児事業協会「育児事業調査報告」刊 Lowenfeld, V.: The Nature of Creative Activity. 刊</p> <p>三月 「義務教育費国庫負担法」公布（市町村義務教育費国庫負担法廃止）</p>
<p>昭和一五 一九四〇</p>		

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
『幼児の教育』第四十卷 昭和一六 一九四一 『幼児の教	三月 恩賜財団法人愛育会主催、戦没者遺族保育所保母養成講習会開催 四月 福岡、西南保母学院（西南大学児童教育科）開設 同月 秋田、聖園保母学院開設 五月 皇紀二千六百年記念、第八回全国幼稚園関係者大会開催 十月 紀元二千六百年記念、全国社会事業大会において社会事業は厚生事業として再編成、保育は国民教育の基礎的錬成として位置づけるとし、幼児保育の一元化の法令整備について文部厚生大臣に建議 十一月 横浜保母学院（横浜保育専門学院）開設 社会事業研究所「季節共同保育所」刊 内山憲尚著「幼稚園、託児所談話法」刊 川崎大治著「季節保育所の経営及び其実際」刊 一月 「教職員共済組合令」公布、市町村立小学校、青年学校、幼稚園の職員を対象 三月 「幼稚園令」改正	六月 英国、全学校閉鎖 九月 日独伊三国同盟調印 十月 大政翼賛会結成 ——大日本紙芝居研究会発会 石井桃子訳「熊のプーさん」刊（ミルン著 Winnie-the-Pooh の訳、翻訳児童文学の新風とされる） 三月 「国民学校令」公布（小学校令を改正） 同月 「国民学校令施行規則」制定（小学校令施行規則改正）

同月 保育問題研究会「国民幼稚園要綱試案」発表

四月 「幼稚園令施行規則」改正。国民学校令の公布に伴う字句修正と公立幼稚園職員の見退、服務、懲戒処分、免許状襍費、俸給旅費など新たに規定

同月 「学校職員身体検査規程」改正

同月 記録映画「或る保母の記録」完成

十一月 「学校防空緊急対策に関する件」通達。幼稚園については空襲の危険の切迫とともに一定期間授業を中止してよいこととする。

十二月 豊田英雄死す

——松野クララ、ドイツにおいて死す

——東京府社会事業協会保母養成所開設

——東京、双葉保母養成所開設

改訂「系統的保育案」刊

市橋善之助著「幼児教育論」(現代学芸全書第八十七卷)刊

根岸草笛著「実践季節保育所」刊

基督教保育連盟編「日本基督教幼稚園史」刊

内山憲尚著「国民保育要議」刊

橘正薫著「幼児からの算術教育」(母の為の講座)刊

砥上種樹著「簡易施設保育の実際」刊

同月 「国民学校教員検定委員会官制」公布

四月 六大都市に米穀配給通帳制実施

六月 ソ連、学童疎開開始まる

十二月 太平洋戦争起る

——英国、戦時保育所計画始まる

主婦之友社編「母の愛育全集第二巻、幼児の巻」刊  
国語教育学会編「児童文化論」刊(児童に関する最初の論文集)

桜井庄太郎著「日本児童生活史」刊

大槻憲二著「育児と教育」刊

Piaget, J. & Szeminska, A.: La genèse du nombre chez l'enfant. 刊(英訳 Child's Conception of Number. 1952. 日本訳「数の発達心理学」一九六一年)

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和一七 一九四二 『幼児の教育』第四十二卷	上沢謙二著「保育の実際」刊 上沢謙二著「保育記録園児と遊ぶ」刊 波多野勤子著「わが子の成長と心理」刊 関寛之著「幼児心理学」刊 幼稚園教育研究会「保育研究叢書」全六輯刊 保育問題研究会『保育問題研究月報』創刊  二月 重要事業場労務管理令施行規則（乳幼児保育施設設置を命ずることができる） 五月 教育審議会廃止  和田実著「保育学、一名幼児教育学」刊 保育問題研究会編「国民保育のために」刊 三木安正著「幼児の心理と教育」刊 川崎大治著「村の保育所」刊 愛育会、中央社会事業協会編「常設幼児保育施設の調査」刊 文部省教育調査部編「幼児教育に関する諸問題」刊	二月 大日本婦人会設立 五月 文部省、「戦時家庭教育指導要領」制定 六月 ミッドウエー海戦 十月 学制七十年記念式典挙行 十一月 「文部省官制」公布 —— 日本少国民文化協会発会 —— 米國、戦時保育所計画始まる  柳田国男著「こども風土記」刊 ヘルガ・エング著、大友一三、国際書房編輯部共訳 「児童画の心理」刊

昭和一八  
一九四三  
『幼児の教  
育』第四十  
三卷

三月 保育問題研究会、保育報国隊結成を企てる。  
 同月 「高等女学校規程」制定。幼稚園または保育所を付設でき  
 ることとする  
 同月 「学校医及幼稚園医令」改正  
 同月 「学校歯科医及幼稚園歯科医令」改正  
 四月 「六大都市学校幼稚園ニ関スル認可特例」改正  
 同月 東京市、「東京市戦時託児所使用条例」制定  
 同月 東京市、神田戦時託児所をはじめ、四十五カ所開設  
 六月 「学徒戦時動員体制確立要綱」閣議決定。工場地域や農村  
 等の簡易または季節幼稚園や託児所の保育に女子学徒を従事さ  
 せることとする  
 八月 大政翼賛会第七委員会「乳幼児並に母性保護対策調査報告  
 書」上申  
 十月 『幼児の教育』、母親のための読み物「月刊幼児の母」の  
 併載終わる（戦下物資不足のため）  
 同月 「教育ニ関スル戦時非常措置方策」閣議決定

牛島義友他著、愛育研究所編「乳幼児精神発達検査略  
 説」刊

三月 「師範教育令」改正

——米英の楽曲約千曲演奏禁止さる

愛育研究所「幼児の言語発達」刊  
 小高吉三郎著「日本の遊戯」刊

年号	日本の幼児保育事項	関連事項
昭和一九 一九四四 『幼児の教育』第四十 四巻	十二月 日本母性保護会、日本小児保健報告会、愛育会の合体により、大日本母子愛育会となる — 東京高等保育学校開設 武政太郎著「幼児の心理と教育」刊 中央社会事業協会事業研究所、愛育会愛育研究所共編「本邦保育施設に関する調査」刊 和田実著「保育学」刊 岡崎文規著「戦時下の乳幼児保護問題」刊 四月 東京都、幼稚園閉鎖令を出す 五月 「戦時託児所設置規程」定める 同月 「学校身体検査規定」制定 六月 「帝都学童集団疎開実施要領」決定 同月 「一般疎開ノ促進ヲ図ルノ外、特ニ国民学校初等科児童ノ疎開ヲ強度ニ促進スル」ことを閣議決定 七月 東京都、疎開保育所の開設にふみきる 八月 愛知県、「幼稚園ノ戦時保育対策ニ関スル件」の通牒を出	十月 神風特別攻撃隊編成 十一月 東京初空襲 — この年ほとんどの保育雑誌廃刊 — 英国、バター法制定（保育学校の整備強調される）

し「戦時保育所」への転換を指示

十一月 愛育研究所附属保育所で集団疎開始まる

十二月 『幼児の教育』誌、十二月号を最後に休刊となる

三木安正著「乳幼児の保育」刊

関猛、切刀よし子共著「保育教材幼児の遊びと指導」刊

守屋光雄著「乳幼児心理学」刊

山下俊郎著「幼児の家庭保育」刊

竹下直之他編「就学前の児童」刊

莊司雅子著「フレーベルの教育学」刊

『幼児の教育』誌は、昭和二十一年九月まで休刊し、昭和二十二年十月復刊となり、現在に至る。